

新聞配布を通して、
皆さんとお茶っこさせてもらって、
あったかい東北の皆さんが好きになって、
神奈川から女川町に移住しました！
これからも皆さんと一緒に、
東北の地で歩んでいきたいです。

さすな新聞 ひで(女川)



震災発災後一ヶ月で現地に赴き、
こころのケアを担当しました。
避難所で皆さんからお話を聞き、
何度も涙をこらえた記憶があります。
そのような中でも「遠くから来てくれて
ありがとう」等感謝の気持ちを頂いたことは、
今を生きる私の原動力になっています。
皆さんどうかお元気で！

大分赤十字病院 徳丸茂史

あれから10年たつのでですね。
足を踏み入れた時の状況は
言葉にならないものでした。
にもかかわらず、巡回診療や小学校での
活動の際に接してくれた方々の笑顔に、
勇気をもらいました。
コロナでも大変な状況ですが、
共に乗り越えましょう！

岡山赤十字病院 アカタカ

震災一週間後に、
石巻赤十字病院の玄関の前で薬を
希望する方の受付や整理を行いました。
雪混じりの寒い時期でしたが、訪れる皆さんが
大変な中でも「あなたも体に気をつけてね」と
気にかけてくれた事が印象的で
心に残っています。寒い時期が続きますが
どうか無理をなさらずに！

成田赤十字病院 宮川文枝



「どこから来てくれたんや？滋賀？びわ湖の所？」
患者さんにお食事を配膳するとこのように
言われました。救護員服に身を包み
緊張しながら活動を始めた日、
温かい言葉にどれだけ励まされたことか。
たとえ離れていても私たちは
赤十字の心で繋がり、
いつでも助け合うことができると信じています。

長浜赤十字病院 泉絵理



発災直後の避難所で医療救護活動を終えた後、
皆さまから暖かいご飯をいただきました。
当時、避難所に食料はほとんどなかった
筈なのに「みんなの気持ちだから」と。
皆さまの優しさに涙が溢れました。
私は今も、災害時の被害を減らす活動に
心血を注いでいます。
私たちは忘れません。

日赤東京都支部 渡邊

平成23年3月30日から4月4日まで、
石巻赤十字病院への薬剤師支援として
活動しました。薬を届けに避難所を
数ヶ所回りましたが、
苦難を乗り越えるために皆で支え合い
協力し合う姿を見て勇気をもらいました。
何年経っても決して忘れません。
ずっと応援しています。

釧路赤十字病院 渡邊清人

皆さんとの出逢いは、
大切な思い出の
1ページになっています。
コロナが終息して再会できる日を
心待ちにしています。

さすな新聞 さらい(東京)



もう10年になるんですね。
新型コロナのため、
石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、
また会いにいけますね。
時間が経っても悲しいお気持ちは
変わらないと思いますが、
少しでも元氣出してもらえると嬉しいです。
新聞配りにいったらお話ししましょう。

さすな新聞 佐藤俊一/しゅん(東京都)



集会所でマジックショーをさせていただいた
タップリンの妻です。
夫も私も、早く石巻に行きたくて
ウズウズしています！
コロナが早く治るといいですね。
作り笑いでも何でも、笑うと心がほぐれて
楽しくなるのだそうです。どうか笑って
免疫力を上げて、お元気でいらしてくださいね。

さすな新聞 大西小百合(愛知)



2011年5月に避難所を訪問しました。
自身が大変なのに福岡から来た私を
「遠くからありがとう」と励まして下さいました。
帰り際に頂いた
石巻の美しい桜の絵葉書を見て
あの時を思い出します。
あの日から10年、
今もこれからもずっと絆は繋がっています。

福岡赤十字病院 久村郁子

震災2週間後に、石巻で病院外来と
避難所の巡回診療を行いました。
現地で多くの方々に会い、
前向きに協力し合って生活している
姿に元気をもらえました。
この経験は、その後の災害時対応の
心得になっております。

今津赤十字病院 尾前豪

救護所で診療を終えた老夫婦が、
雪の中迎え待ちで、
2人で寄り添いあうかのように
座ってらっしゃいました。
その姿が何となく微笑ましく、
極寒の中の活動でふと心が癒された
瞬間でした。何気ない日常を大切にしたいと
強く感じる今、当時を思い出しました。

日赤医療センター 苔米地



震災発生から約2か月後、石巻へ向かいました。
私自身初めての派遣で不安もありましたが、
石巻の方々はあたたかく
受け入れてくださいました。
地域の運動会に参加したことも、
忘れられません。
本当にありがとうございました。
状況が落ち着いたら、また石巻にお伺いします。

熊本赤十字病院 藤水敦子



10年間、
たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。
直接お会いした方、
紙面を通して出会ってくださった方、
すべての出会いに感謝です。
11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。
あの日を生き抜き、
そして今日まで生きててくれて、ありがとう。

さすな新聞 岩元暁子/あき(東京/石巻)

